


会 議 録

会議の名称	行田市在宅医療・介護連携推進協議会 普及啓発部会	
開催日時	平成29年9月14日(木) 開会； 20時00分・閉会； 20時45分	
開催場所	行田市産業文化会館 管理棟 2A会議室	
出席者(委員)氏名	松井毅、浅見和成、荒木 宏、矢那瀬淳一、清水由香理、藤村幸子、寺山有紀、山岸朱美、寒河江涼太、新井竜、山岸克也、近藤慶一、前田千穂、加藤里美、川島 治、溝上俊亮	
欠席者(委員)氏名		
事務局	行田市高齢者福祉課地域包括ケア担当 行田市機能強化型地域包括支援センター緑風苑	
会議内容	在宅医療、在宅介護、在宅看取りの普及啓発及び広報誌発行について	
会議資料	(資料名・概要等)	
その他必要事項		
会議録の確定		
確定年月日	主宰者記名押印	
29年10月12日	 松井毅 浅見和成	

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
川島会長	<p>開会</p> <p>みなさんこんばんは。行田市医師会の川島です。宜しくお願いします。医療介護推進協議会作業部会という事で皆様にお集まりいただきました。医療介護連携は8つの事業からなっており、みなさんをお願いしたいのがこの紙の上の段、(キ)の地域住民への普及啓発というところです。行田市は埼玉県で消滅可能都市第2位といわれており、後20年の間に少子化による人口減少が進み、行田市は消滅するといわれています。地域包括ケアや医療介護連携という前例がありませんし、他の都市も参考にならず、行政は明確なビジョンを示すことができません。ですからこの協議会で皆さんの意見を元に、年を重ねても安心して住み続けられる行田市をつくる、こういった理念で皆さんも一市民としてまた専門職として現場の知恵を出していただき、行田市のあるべき姿、今後どういったビジョンでこの行田市を進めていくかお示しいただき、行政や市民をリードしていく、こういった形でお願いできればと思います。注意事項を申し上げます。議事の進行は松井委員、浅見委員が担当させていただきます。本日の会議時間は概ね45分を予定しておりますので、円滑な議事進行にご協力お願いいたします。所属する部会での発言はフリーですが、他の部会にご参加される場合は原則聴講のみとさせていただきますのでご意見あった場合は議事進行の委員さんに仰っていただければ次の議会の時に反映させていただきます。皆さんいろんな呼び名で呼んでいると思いますが、呼称は委員の呼び名で統一をお願い致します。</p>
松井委員	<p>みなさんこんばんは。司会進行を担当させていただきます歯科医師会の松井と申します。宜しくお願いいたします。</p> <p>皆さん自己紹介をお願い致します。</p>

<p>松井委員</p>	<p>自己紹介</p> <p>本日は特に資料等はないが、我々の部会はこの上の組織であり、行田市在宅医療介護連携推進協議会があるが、我々は、その下部組織になる。実際には実行部隊という形となる。といっても我々が直接動く訳ではなく、ある程度決まった事が効率よく市民に周知され、それが機能しているか作り上げていくという事である。決まった事をどう市民に周知するか、もうひとつは市の方からいえば低予算でという事になると思う。今はネット社会でもあり、いろいろな医療介護の問題が情報としてあるが、今の皆さんの立場からこういうふうに伝えていきたい、こんな問題が機能していないなど何か感じる所があればお聞きしたい。普及啓発とかこれからの未来像も含めてですが何か思う事があればお話下さい。</p>
<p>前田委員</p>	<p>4月にデイサービスからショートステイに移動。主に予約担当をしている。予約はケアマネからの直接依頼が基本だが、家族から連絡がある事がある。介護保険を理解されていないと感じる。</p>
<p>山岸委員</p>	<p>同じ事を感じる。家族の理解が薄いというところでケアマネの判断だけでサービスが決まる。家族の方や病院も入り、より良いサービスが受けられるとよい。</p>
<p>松井委員</p>	<p>退院調整のからみもありますね。</p>
<p>山岸委員</p>	<p>はい。元のサービスに戻るというのがありがち。退院時状態が変わっており、また病院での報告や現状を聞くと、元のサービスですんなりいけるのかと感じる。</p>

藤村委員	今の在宅というのは、施設における在宅としか受け取れない。最終的には、本来の意味の自宅での在宅になる様希望する。
寺山委員	介護保険について、ここまで我慢していたのかと思うくらい介護度が重くなってから申請をする方がいらっしゃる。
松井委員	介護保険情報を詳しくという事ですね
寺山委員	はい
加藤委員	普及啓発は難しい。現状、病気をされて入院された方は病院で介護保険を申請する方が多い。在宅の場合、周りから地域包括支援センターの事を初めて聞き相談に行く。ひとり暮らしの方、認知症で一人暮らしの方への見守りも必要。
寒河江委員	なるべく早く退院をというところで、介護保険を申請し、ケアマネをたて退院する事が望ましい。介護保険をもっている方は退院までがスムーズ。もっていない方は、行田市の場合だと状態が落ち着くまで介護保険申請しても差し戻される事があるが暫定で使えることもある。介護保険をもっている状態で入院し、サービスを使う使わないに関わらず、ケアマネや地域包括の目が入っている事が望ましい。地域支援事業で、寝たきりの手前位の状態の方にも集まっていたいただき提案できたらよい。
加藤委員	相談業務をおこなっている。介護保険の内容や、在宅で生活するにはどうしたらいいのかを病気になって初めて知るという方が非常に多い。市報に載せても周知されない。回覧板を利用すればみなさんの目に届くのではないか。

山岸委員	<p>デイサービスについてお話させて頂く。運動機能中心に行なっている。要支援の方は一人暮らしが多い。遠方に住んでいる息子、娘さんが心配し一緒に施設を見に来る。本人も息子、娘さんもどこに相談して良いか分からないという状況がある。遠方でもHPなどで知ろうとするときに知れるものがあるとよい。通常の介護サービスを受けたがらない人が多い。息子、娘さんが説得して無理やり連れてくるケースだったり、また家族が必要ないと言う場合もある。そこにスッと入っていける窓口を市が作って欲しい。</p>
柳瀬委員	<p>介護の普及という点から考えていくと、本人でなく周囲の方から動き出す事が多い。家族の方にいかに普及するかがポイントだと思う。具体的な方法を考えていきたい。</p>
清水委員	<p>薬局勤務。介護保険がなく、ぎりぎり自分でこれるからという方が多い。在宅の話をしてはまだ頑張れるという高齢者も多い。気負わず使ってもらえる様介護保険の内容を知っていただきたい。</p>
新井委員	<p>通所リハビリを行なっている。本人も家族も介護保険を理解されていない。市で行われている教室などが周知されていない。正直、事業所の方も詳しくない。市報に載っているのを見たが、市報だけでは伝わっていないと感じる。もう少し小さい範囲で、回覧板などで周知したほうが良い。</p>
近藤委員	<p>以前都内で働いていた。地域交流スペースで健康塾をしていたが、場所まで遠く、人が集まらない。情報提供を世代別に合ったもので細かくする必要がある。</p>
浅見委員	<p>介護保険に対して理解が乏しい。一人暮らし、孤立している人にどう情報を普及していくか考えていかなければならない。</p>

松井委員	<p>情報発信する時に、誰に何をどんな方法でという流れがある。医療介護者だけでなく地域全体でその人を支えていくのが本来の目的。誰にというところでは介護問題ををかかえている家族、これから可能性のある方達、医療と介護の専門職、この3パターンに分かれる。他のGWで決まった事の情報を受けて対象者に効率よく周知できるのか考えていきたい。</p> <p>目ざしているのは予防。地域、民生委員、いろんな団体と一緒に協力して進めていきたい。市のHPでいろいろな事業があるがわかりにくい。くわしく対象者に伝わる事が大事。</p>
川島会長	<p>他の3部会からいろいろなオーダーを引受け、それをどう情報発信していくのか大事。在宅介護を安心して受けられるという事を皆さんに示していく。ポイントを絞った広報活動をする。</p>
溝上委員	<p>家族が認知症を知らない。在宅と病院の医療は質も内容も違うことを一般市民に知ってほしい。退院しても買い物に行けないなどの現実を知って欲しい。</p>
松井委員	<p>横の繋がりとして、情報収集しながらひとつずつ進めていけたらよい。</p> <p>この部会、毎月必要ないと思うが皆さんはどうか？</p>
溝上委員	<p>固定で決めておき、そこにあるか確認し、議事録や議題を事前にメールで送信、参加できない時は意見あればメール回答し、代読する形はどうか？ある程度は事務局に任せてもよいのでは？</p>
松井委員	<p>毎月どこと、決めておいたほうがよい？</p>
溝上委員	<p>各部会の意見をまとめ、協議会で検討し決めたらどうか？</p>

松井委員	皆さんの意見をメールで聞き決める
川島会長	三本柱は大体出たと思う。各団体の情報をみてイメージする。 専門家向けなのか介護者向けなのか優先順位を決め成果物を作ったほうがよい。
松井委員	他のグループの情報はどう知る事ができるか？
溝上委員	委員に議事録をメールで送り、承認を得て部会に回る。 会の議題は早めに出したほうが良い。
川島会長	普及啓発自体は動き出してよい。成果物を出し例を作りメールで情報を出す。
松井委員	皆さんメールで情報交換お願いします。
浅見委員	(参考チラシ回す) 在宅医療や病気になった時、介護が必要になった時の相談先等の分かりやすいチラシを作成し回覧板で普及できたらよい。
松井委員	このチラシはメールで貼付させていただく。 時間帯は？
溝上委員	検討します。
川島委員	木曜の第2週は予定を空けておいて欲しい。 参加できない方は、メールで送られた議題の意見をメールするという形にする。
松井委員	皆様お疲れ様でした。

	閉会
--	----